

大学番号：私立17

注3

設置年度 令和 2年度

計画の区分：学部の学科の設置

注1

届出

東北工業大学 工学部 環境応用化学科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 東北工業大学
令和3年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名

職名・氏名 ダイガクジ ムキョク キョウムガクセイのチョウ
大学事務局 教務学生課長
メクロ ユウジ
目黒 裕二

電話番号 022-305-3160

（夜間） 022-305-3300

e-mail gakumu@tohtech.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

工学部

＜環境応用化学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	13
4. 既設大学等の状況	14
5. 教員組織の状況	16
6. 附帯事項等に対する履行状況等	28
7. その他全般的事項	29

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 東北工業大学

(2) 大学名

東北工業大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒982-8577

宮城県仙台市太白区八木山香澄町35番1号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ヒグチ タツオ) 樋口 龍雄 (平成28年4月)		
学長	(コンノ ヒロシ) 今野 弘 (平成28年4月)	(ワタナベ ヒロノリ) 渡邊 浩文 (令和3年4月)	今野弘 学長 の任期満了のため(3)
学部長	(コバヤシ マサキ) 小林 正樹 (令和2年4月)	(クドウ エイスケ) 工藤 栄亮 (令和3年4月)	小林正樹 学部長 の副学 長就任に伴う学部長交代 のため(3)
学科長等	(ヤマダ カズヒロ) 山田 一裕 (令和2年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)

令和3年度に報告する内容 → (3)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
工学部 環境応用化学科 学士（工学）	工学関係	4年	65人	— 年次人	260人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」）の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	65人 (-) [-]	—	65人 (-) [-]	—	() () [] []	1.02 倍	— 倍				
志願者数	397 (-) [0]	— (-) [-]	323 (-) [2]	— (-) [-]	() () [] []						
受験者数	374 (-) [0]	— (-) [-]	309 (-) [1]	— (-) [-]	() () [] []						
合格者数	294 (-) [0]	— (-) [-]	277 (-) [1]	— (-) [-]	() () [] []						
B 入学者数	75 (-) [0]	— (-) [-]	58 (-) [1]	— (-) [-]	() () [] []						
入学定員超過率 B/A	1.15		0.89								

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	76 [0] (-)	- [-] (-)	58 [1] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	※令和2年度の1年次在学者には、他学科からの転学科生1名を含む ※上記の他学科からの転学科生は、令和3年度に転学科前の学科に再移籍したため、令和3年度の2年次在学者には当該1名が含まれていない
2年次	/		71 [0] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3年次	/		/		- [-] (-)				
4年次	/		/		/		- [-] (-)	- [-] (-)	
計	76 [0] (-)		129 [1] (-)		- [-] (-)		- [-] (-)		

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	人	人	平成29年度	人	人	
平成30年度	人	人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成29年度	人	人	
			平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	76人	2人	平成29年度	—人	—人	
			平成30年度	—人	—人	
			令和元年度	—人	—人	
			令和2年度	2人	0人	他の教育機関への転学(2名)
令和3年度	129人	2人	平成29年度	—人	—人	
			平成30年度	—人	—人	
			令和元年度	—人	—人	
			令和2年度	2人	0人	就学意欲の低下(1名)、死亡(1名)
			令和3年度	0人	0人	
合計		4人		4人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{76} = \boxed{2.63} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{129} = \boxed{1.55} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<工学部 環境応用化学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域・文化・社会	表象文化論	1前	2								1	
	現代社会論	1前	2								1	
	現代メディア論	2前	2								1	
	環境問題とエコロジー	2前	2				1					
	市民と法	2後	2								1	
	暮らしと心理学	2後	2								1	
	科学思想史	2後	2								1	
	東北文化史	2後	2								1	
	市民と政治	3前	2								1	
	産業社会と心理学	3前	2								1	
	産業社会と倫理	3前	2								1	
	情報社会の経済	3後	2								1	
	日本国憲法	3後	2								1	
	現代の哲学	4前	2								1	
	ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ	2前	2								1	
	ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ	3前	2								1	
	教養教育科目	職業指導(工業)	3前	2								2
		情報社会とモラル	3前	2								1
		情報と職業	3後	2								1
		工業概論	3前	2								1
フランスの文化と言葉		1後	2								1	
ドイツの文化と言葉		1後	2								1	
韓国の文化と言葉		1後	2								1	
中国の文化と言葉		1後	2								1	
言葉と表現		スタディスキルⅠ	1前	1								1
		スタディスキルⅡ	1後	1								1
	プレゼンテーション	1後	1								1	
	ビジネスマナー	3後	1								1	
	英語ⅠA	1前	1								2	
	英語ⅠB	1後	1								2	
	英語ⅡA	2前	1								2	
	英語ⅡB	2後	1								2	
	英会話A	1前	1								1	
	英会話B	1後	1								1	
心と体の健康	資格英語A	2前	1								1	
	資格英語B	2後	1								1	
学際	健康・運動科学実習Ⅰ	1前	1								6	
	健康・運動科学実習Ⅱ	1後	1								5	
	スポーツ科学実習	2前	1								9	
	特別課外活動Ⅰ	1前-4後	1									
	特別課外活動Ⅱ	1前-4後	1									
特別課外活動Ⅲ	1前-4後	2										
特別課外活動Ⅳ	1前-4後	2										
他大学等教養科目群	1後-4前	4										
小計(44科目)	-	6	67	0	0	0	0	0	0	0	36	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域・文化・社会	表象文化論	1後	2								1	
	現代社会論	1後	2								1	
	現代メディア論	2後	2								1	
	環境問題とエコロジー	2前	2				1	1				
	市民と法	2後	2								1	
	暮らしと心理学	2後	2								1	
	科学思想史	2後	2								1	
	東北文化史	2前	2								1	
	市民と政治	3前	2								1	
	産業社会と心理学	3前	2								1	
	産業社会と倫理	3前	2								1	
	情報社会の経済	3後	2								1	
	日本国憲法	3後	2								1	
	現代の哲学	4前	2								1	
	教養教育科目	キャリアデザインⅠ	1前	1								1
		キャリアデザインⅡ	2前	1								1
		キャリアデザインⅢ	3前	1								1
		人工知能総論	1前	1								2
		人工知能入門	1後	1								2
		人工知能基礎	3前	2								1
人工知能応用		3後	2								1	
職業指導(工業)		3前	2								2	
情報社会とモラル		3前	2								1	
情報と職業		3後	2								1	
言葉と表現	工業概論	3前	2								1	
	フランスの文化と言葉	3後	2								1	
	韓国の文化と言葉	3後	2								1	
	中国の文化と言葉	3後	2								1	
	スタディスキルⅠ	1前	1								1	
	スタディスキルⅡ	1後	1								1	
	プレゼンテーション	3後	1								1	
	ビジネスマナー	3後	1								1	
	英語ⅠA	1前	1								2	
	英語ⅠB	1後	1								2	
英語ⅡA	2前	1								1		
英語ⅡB	2後	1								2		
英会話Ⅰ	1前	1								1		
英会話Ⅱ	1後	1								1		
英会話Ⅲ	2前	1								1		
英会話Ⅳ	2後	1								1		
資格英語Ⅰ	2前	1								1		
資格英語Ⅱ	2後	1								1		
資格英語Ⅲ	3前	1								1		
心と体の健康	健康・運動科学実習Ⅰ	1前	1								4	
	健康・運動科学実習Ⅱ	1後	1								4	
スポーツ科学実習	2前	1								4		
学際	特別課外活動Ⅰ	1前-4後	1									
	特別課外活動Ⅱ	1前-4後	1									
	特別課外活動Ⅲ	1前-4後	2									
	特別課外活動Ⅳ	1前-4後	2									
	他大学等教養科目群	1後-4前	4									
小計(51科目)	-	8	71	0	1	1	0	0	0	0	34	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	数学基礎	1前	2								1
	物理基礎	1前	2								1
	生物基礎	1前	2				1				1
	情報リテラシー	1前	2						1		
	化学基礎	1前	2								1
	工業化学概論	1前	2						1		
	循環型社会形成論	1前	2	2		1					1
	微分積分学Ⅰ	1後	2			1					
	物理学Ⅰ	1後	2			1					
	科学リテラシー	1後	2			2			1		
	物理化学Ⅰ	1後	2				1				
	有機化学	1後	2			1					
	分析化学Ⅰ	1後	2			1					
	化学工学	1後	2			1					
	環境マネジメント	1後	2	2		1					
	地球環境とエネルギー	1後	2	2					1		
	環境応用化学セミナー	1後	1			5	3		1		
	微分積分学Ⅱ	2前	2	2		1					
	物理学Ⅱ	2前	2	2		1					
	物理化学Ⅱ	2前	2	2							1
	高分子化学	2前	2			1					
	無機化学	2前	2				1				
	分析化学Ⅱ	2前	2			1					
	分析化学実験	2前	2			1	1				
	地球環境科学基礎	2前	2	2			1				
	大気環境工学	2前	2	2		2					
	線形代数と微分方程式	2後	2	2		1					
	環境化学(※)	2後	2	2		1					
	表面化学(※)	2後	2	2		1					
	有機合成化学(※)	2後	2	2		1					
	熱力学(※)	2後	2	2		1					
	物理化学実験	2後	2	2		1	1				
	地域環境調査法及び同演習	2後	2	3		1	1				1
	水環境工学	2後	2	2		1					
	錯体化学(※)	3前	2	2			1				
	計測工学(※)	3前	2	2		1					
	固体・光化学(※)	3前	2	2		1	1				
	触媒化学(※)	3前	2	2			1				
	化学数学Ⅰ	3前	2			1					
	応用化学実験	3前	2			1	1				
	地域環境調査実習	3前	2	2		1	1				
	土壌環境工学	3前	2	2			1				
	生化学(※)	3後	2	2							1
	電気化学(※)	3後	2	2			1				
	機能材料(※)	3後	2	2		1					
有機・無機材料(※)	3後	2	2			1				1	
化学数学Ⅱ及び同演習	3後	3			1						
緑地環境工学	3後	2	2			1					
環境応用化学研修Ⅰ	3後	1			5	3					
CAD技術入門(※)	4前	2	2					1			
放射化学(※)	4前	2	2		1						
資源循環とライフサイクルアセスメント	4前	2	2		1	1					
環境応用化学研修Ⅱ	4前	3			5	3					
環境応用化学研修Ⅲ	4後	3			5	3					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	数学基礎	1前	2								2
	物理基礎	1前	2								2
	生物基礎	1前	2				1				0
	情報リテラシー	1前	2						1		
	化学基礎	1前	2								1
	工業化学概論	1前	2						1		
	循環型社会形成論	1前	2	2		1					1
	微分積分学Ⅰ	1後	2			1					
	物理学Ⅰ	1後	2			1					
	科学リテラシー	1後	2			2			1		
	物理化学Ⅰ	1後	2				1				
	有機化学	1後	2			1					
	分析化学Ⅰ	1後	2			1					
	化学工学	1後	2			1					
	環境マネジメント	1後	2	2		1					
	地球環境とエネルギー	1後	2	2					1		
	環境応用化学セミナー	1後	1			6	2		1		
	微分積分学Ⅱ	2前	2	2		1					
	物理学Ⅱ	2前	2	2		1					
	物理化学Ⅱ	2前	2	2							1
	高分子化学	2前	2			1					
	無機化学	2前	2				1				
	分析化学Ⅱ	2前	2			1					
	分析化学実験	2前	2				2	1			
	地球環境科学基礎	2前	2	2			1				
	大気環境工学	2前	2	2		2					
	線形代数と微分方程式	2後	2	2		1					
	環境化学(※)	2後	2	2		1					
	表面化学(※)	2後	2	2		1					
	有機合成化学(※)	2後	2	2		1					
	熱力学(※)	2後	2	2		1					
	物理化学実験	2後	2	2			2	1			
	地域環境調査法及び同演習	2後	2	3		1	1				1
	水環境工学	2後	2	2		1					
	錯体化学(※)	3前	2	2			1				
	計測工学(※)	3前	2	2		1					
	固体・光化学(※)	3前	2	2		1	1				
	触媒化学(※)	3前	2	2			1				
	化学数学Ⅰ	3前	2			1					
	応用化学実験	3前	2				2				
	地域環境調査実習	3前	2	2		1	1				
	土壌環境工学	3前	2	2			1				
	生化学(※)	3後	2	2							1
	電気化学(※)	3後	2	2			1				
	機能材料(※)	3後	2	2		1					
有機・無機材料(※)	3後	2	2			1				1	
化学数学Ⅱ及び同演習	3後	3			1						
緑地環境工学	3後	2	2				1				
環境応用化学研修Ⅰ	3後	1			6	2					
CAD技術入門(※)	4前	2	2					1			
放射化学(※)	4前	2	2		1						
資源循環とライフサイクルアセスメント	4前	2	2		1	1					
環境応用化学研修Ⅱ	4前	3			6	2					
環境応用化学研修Ⅲ	4後	3			6	2					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	環境応用化学特別課外活動Ⅰ	1前-4後		1								
	環境応用化学特別課外活動Ⅱ	1前-4後		1								
	環境応用化学特別課外活動Ⅲ	1前-4後		1								
	環境応用化学特別課外活動Ⅳ	1前-4後		2								
	環境応用化学特別課外活動Ⅴ	1前-4後		2								
	環境応用化学特別課外活動Ⅵ	1前-4後		2								
	他学科開講科目群	1後-4後		4								
	他大学開講科目群	1後-4後		4								
小計(62科目)		-	51	76	0	5	3	0	1	0	9	
合計(106科目)		-	57	143	0	5	3	0	1	0	45	
卒業要件及び履修方法												
教養教育科目必修6単位を含む24単位以上、専門教育科目必修51単位を含む100単位以上、合計124単位以上修得のこと。 ただし、※1の科目の中から合計12単位以上を必ず修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(1セメスター))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	環境応用化学特別課外活動Ⅰ	1前-4後		1								
	環境応用化学特別課外活動Ⅱ	1前-4後		1								
	環境応用化学特別課外活動Ⅲ	1前-4後		1								
	環境応用化学特別課外活動Ⅳ	1前-4後		2								
	環境応用化学特別課外活動Ⅴ	1前-4後		2								
	環境応用化学特別課外活動Ⅵ	1前-4後		2								
	他学科開講科目群	1後-4後		4								
	他大学開講科目群	1後-4後		4								
小計(62科目)		-	51	76	0	6	2	0	1	0	10	
合計(113科目)		-	59	147	0	6	2	0	1	0	44	
卒業要件及び履修方法												
教養教育科目必修8単位を含む24単位以上、専門教育科目必修51単位を含む100単位以上、合計124単位以上修得のこと。 ただし、※1の科目の中から合計12単位以上を必ず修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(1セメスター))												

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
地域・文化・社会	表象文化論	1前		2								1
	現代社会論	1前		2								1
	現代メディア論	2前		2								1
	環境問題とエコロジー	2前		2			1					
	市民と法	2後		2								1
	暮らしと心理学	2後		2								1
	科学思想史	2後		2								1
	東北文化史	2後		2								1
	市民と政治	3前		2								1
	産業社会と心理学	3前		2								1
	産業社会と倫理	3前		2								1
	情報社会の経済	3後		2								1
	日本国憲法	3後		2								1
	現代の哲学	4前		2								1
	ライフ・キャリアデザインⅠ	2前		2								1
	ライフ・キャリアデザインⅡ	3前		2								1
	職業指導(工業)	3前		2								2
	情報社会とモラル	3前		2								1
	情報と職業	3後		2								1
	工業概論	3前		2								1
フランスの文化と言葉	1後		2								1	
ドイツの文化と言葉	1後		2								1	
韓国の文化と言葉	1後		2								1	
中国の文化と言葉	1後		2								1	
科目	スタディスキルⅠ	1前	1									1
	スタディスキルⅡ	1後	1									1
	プレゼンテーション	1後		1								1
	ビジネスマナー	3後		1								1
	英語ⅠA	1前	1									2
	英語ⅠB	1後	1									2
	英語ⅡA	2前	1									2
	英語ⅡB	2後	1									2
	英会話A	1前		1								1
	英会話B	1後		1								1
	資格英語A	2前		1								1
	資格英語B	2後		1								1
心と体の健康	健康・運動科学実習Ⅰ	1前		1								6
	健康・運動科学実習Ⅱ	1後		1								5
	スポーツ科学実習	2前		1								9
学際	特別課外活動Ⅰ	1前-4後		1								
	特別課外活動Ⅱ	1前-4後		1								
	特別課外活動Ⅲ	1前-4後		2								
	特別課外活動Ⅳ	1前-4後		2								
	他大学等教養科目群	1後-4前		4								
小計(44科目)	-	6	67	0	0	0	0	0	0	0	37	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	数学基礎	1前	2									2
	物理基礎	1前	2									2
	生物基礎	1前	2				1					0
	情報リテラシー	1前	2						1			
	化学基礎	1前	2									2
	工業化学概論	1前	2			4	3		1			
	循環型社会形成論	1前		2		1						1
	微分積分学Ⅰ	1後	2			1						
	物理学Ⅰ	1後	2			1						
	科学リテラシー	1後	2			2			1			
	物理化学Ⅰ	1後	2				1					
	有機化学	1後	2			1						
	分析化学Ⅰ	1後	2			1						
	化学工学	1後	2			1						
	環境マネジメント	1後		2		1						
	地球環境とエネルギー	1後		2					1			
	環境応用化学セミナー	1後	1			5	3		0			
	微分積分学Ⅱ	2前		2		1						
	物理学Ⅱ	2前		2		1						
	物理化学Ⅱ	2前		2								1
	高分子化学	2前	2			1						
	無機化学	2前	2				1					
	分析化学Ⅱ	2前	2			1						
	分析化学実験	2前	2			1	1					
	地球環境科学基礎	2前		2			1					
	大気環境工学	2前		2		2						
	線形代数と微分方程式	2後		2		1						
	環境化学(※)	2後		2		1						
	表面化学(※)	2後		2		1						
	有機合成化学(※)	2後		2		1						
	熱力学(※)	2後		2		1						
	物理化学実験	2後	2			1	1					
	地域環境調査法及び同演習	2後		3		1	1					1
	水環境工学	2後		2		1						
	錯体化学(※)	3前		2			1					
	計測工学(※)	3前		2		1						
	固体・光化学(※)	3前		2		1	1					
	触媒化学(※)	3前		2			1					
	化学数学Ⅰ	3前	2			1						
	応用化学実験	3前	2			1	1					
	地域環境調査実習	3前		2		1	1					
	土壌環境工学	3前		2			1					
	生化学(※)	3後		2								1
	電気化学(※)	3後		2			1					
	機能材料(※)	3後		2		1						
	有機・無機材料(※)	3後		2			1					1
	化学数学Ⅱ及び同演習	3後	3			1						
	緑地環境工学	3後		2			1					
	環境応用化学研修Ⅰ	3後	1			5	3					
	CAD技術入門(※)	4前		2					1			
放射化学(※)	4前		2		1							
資源循環とライフサイクルアセスメント	4前		2		1	1						
環境応用化学研修Ⅱ	4前	3			5	3						
環境応用化学研修Ⅲ	4後	3			5	3						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置				兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教		助手
専門教育科目	環境応用化学特別課外活動Ⅰ	1前-4後		1							
	環境応用化学特別課外活動Ⅱ	1前-4後		1							
	環境応用化学特別課外活動Ⅲ	1前-4後		1							
	環境応用化学特別課外活動Ⅳ	1前-4後		2							
	環境応用化学特別課外活動Ⅴ	1前-4後		2							
	環境応用化学特別課外活動Ⅵ	1前-4後		2							
	他学科開講科目群	1後-4後		4							
	他大学開講科目群	1後-4後		4							
小計(62科目)	-		51	76	0	5	3	0	1	0	10
合計(106科目)	-		57	143	0	5	3	0	1	0	47
卒業要件及び履修方法											
教養教育科目必修6単位を含む24単位以上、専門教育科目必修51単位を含む100単位以上、合計124単位以上修得のこと。 ただし、※1の科目の中から合計12単位以上を必ず修得すること。 (履修科目の登録の上限:24単位(1セメスター))											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・クラス分けを行い、よりきめ細やかな指導を行うため、『数学基礎』の専任教員等の配置を、「兼任教員1名」から「兼任教員2名」に変更。
- ・クラス分けを行い、よりきめ細やかな指導を行うため、『物理基礎』の専任教員等の配置を、「兼任教員1名」から「兼任教員2名」に変更。
- ・兼任教員が就任を辞退したため、『生物基礎』の専任教員等の配置を、「准教授1名、兼任教員1名」から「准教授1名」に変更。
- ・クラス分けを行い、よりきめ細やかな指導を行うため、『化学基礎』の専任教員等の配置を、「兼任教員1名」から「兼任教員2名」に変更。
- ・授業形態を単独からオムニバス方式に変更したため、『工業化学概論』の専任教員等の配置を、「助教1名」から「教授4名、准教授3名、助教1名」に変更。
- ・教員の担当授業回数を一部変更したため、『環境応用化学セミナー』の専任教員等の配置から、「助教1名」を削除。

【令和3年度】

- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『表象文化論』の開講期を1年前期から1年後期に変更。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『現代社会論』の開講期を1年前期から1年後期に変更。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『現代メディア論』の開講期を2年前期から2年後期に変更。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『東北文化史』の開講期を2年後期から2年前期に変更。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『プレゼンテーション』の開講期を1年後期から3年後期に変更。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『フランスの文化と言葉』の開講期を1年後期から3年後期に変更。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『韓国の文化と言葉』の開講期を1年後期から3年後期に変更。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『中国の文化と言葉』の開講期を1年後期から3年後期に変更。
- ・キャリア教育の充実を図るため、『ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ』（2年前期・選択）、『ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ』（3年前期・選択）に代えて、『キャリアデザインⅠ』（1年前期・必修）、『キャリアデザインⅡ』（2年前期・必修）、『キャリアデザインⅢ』（3年前期・必修）を新設。
- ・AI関連教育の充実を図るため、『人工知能総論』（1年前期・必修）、『人工知能入門』（1年後期・選択）、『人工知能基礎』（3年前期・選択）、『人工知能応用』（3年後期・選択）を新設。
- ・英語教育の充実を図るため、『英会話A』（1年前期・選択）、『英会話B』（1年後期・選択）に代えて、『英会話Ⅰ』（1年前期・選択）、『英会話Ⅱ』（1年後期・選択）、『英会話Ⅲ』（2年前期・選択）、『英会話Ⅳ』（2年後期・選択）を新設。また、『資格英語A』（2年前期・選択）、『資格英語B』（2年後期・選択）に代えて、『資格英語Ⅰ』（2年前期・選択）、『資格英語Ⅱ』（2年後期・選択）、『資格英語Ⅲ』（3年前期・選択）を新設。これに伴い、『英語ⅡA』（2年前期）と『英語ⅡB』（2年後期）は必修科目から選択科目に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、『環境問題とエコロジー』の専任教員等の配置を「准教授1名」から「教授1名および准教授1名」に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、『英語ⅡA』の専任教員等の配置を、「兼任講師2名」から「兼任講師1名」に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、『健康・運動科学実習Ⅰ』の専任教員等の配置を「兼任教員1名および兼任講師5名」から「兼任教員2名および兼任講師2名」に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、『健康・運動科学実習Ⅱ』の専任教員等の配置を「兼任教員1名および兼任講師4名」から「兼任教員2名および兼任講師2名」に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、『スポーツ科学実習』の専任教員等の配置を「兼任教員1名および兼任講師8名」から「兼任教員2名および兼任講師2名」に変更。
- ・専任教員の昇任人事により、『工業化学概論』『物理化学Ⅰ』『環境応用化学セミナー』『無機化学』『応用化学実験』『電気化学』『有機・無機材料』『環境応用化学研修Ⅰ』『環境応用化学研修Ⅱ』『環境応用化学研修Ⅲ』の専任教員等の配置を変更。
- ・教育課程編成上の都合により、『分析化学実験』の専任教員等の配置を「教授1名および准教授1名」から「教授2名および准教授1名」に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、『物理化学実験』の専任教員等の配置を「教授1名および准教授1名」から「教授2名および准教授1名」に変更。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

(工学部 環境応用化学科)

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
31 科目	75 科目	0 科目	106 科目	33 科目	80 科目	0 科目	113 科目	
				[2]	[5]	[0]	[7]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目 (該当なし)

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ	2	2年前期	一般	選択	教養教育科目のカリキュラム改定のため。代替措置としては、当該科目に代わって、新たに『キャリアデザインⅠ～Ⅲ』を必修科目として新設した。
2	ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ	2	3年前期	一般	選択	
3	ドイツの文化と言葉	2	1年後期	一般	選択	第2外国語科目の見直しのため。代替措置は無いが、2020年度入学者（改定前カリキュラム適用者）への開講は保障する。

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<ul style="list-style-type: none"> ・ 『ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ』および『ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ』の廃止については、後継科目として『キャリアデザインⅠ』『キャリアデザインⅡ』『キャリアデザインⅢ』を一般教養の必修科目として新たに配置したことで、これまで以上にキャリア教育の充実が図られている。 ・ 『ドイツの文化と言葉』の廃止については、従来、第2外国語の中でも履修者が少ない科目であり、カリキュラムのスリム化や担当教員（非常勤講師）の確保の観点から廃止とした。 <p>以上については、全て令和3(2021)年度入学者からの適用としており、令和2(2020)年度の入学者に対しては、従来カリキュラムを適用し、廃止の3科目も開講するため、学生の履修への影響は無いと判断している。なお、学生へは入学時に配布している「学生便覧」にて周知している他、学内のポータルサイトには読替対応科目を掲載するなど、丁寧な説明と対応に努めている。</p>

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目 (3) と廃止科目 (4) の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計 (A)}} = \frac{3}{106} = \boxed{} 2.83\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積：85,22㎡ (借用期間：20年間)		
	校舎敷地	135,492 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	135,492 ㎡			
	運動場用地	59,037 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	59,037 ㎡			
	小 計	194,529 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	194,529 ㎡			
	そ の 他	86,844 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	86,844 ㎡			
	合 計	281,373 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	281,373 ㎡			
(2) 校 舎	専 用	77,056.87 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	77,056.87 ㎡			
	(70,929.87 ㎡)	(0 ㎡)	(0 ㎡)	(70,929.87 ㎡)				
(3) 教 室 等	講 義 室	42 48 室	演 習 室 5 19 室	実験実習室 23 195 室	情報処理学習施設 4 17 室 (補助職員 2 人)	語学学習施設 0 室 (補助職員 - 人)	AC対象学部等の数値に修正(2) 大学全体	
	新設学部等の名称	室 数						
(4) 専任教員研究室	工学部 環境応用化学科			9 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での算出が 不能のため大学全体 図書の購入、除却等を行 ったことにより冊数等 が増減している。(3) 令和元年度に棚卸を行 い、図書資産の見直し等 を行ったことにより冊数 等が申請時より増減して いる。(2)
	工学部 環境応用化学科	244,938 [56,011] 242,568 [55,814] 229,914 [50,576] (244,718 [55,961]) (242,188 [55,739]) (229,334 [50,476])	2,240 [1,043] 2,251 [1,043] 2,541 [901] (2,240 [1,043]) (2,251 [1,043]) (2,541 [901])	1,594 [1,587] 1,680 [1,670] 206 [198] (1,594 [1,587]) (1,680 [1,670]) (206 [198])	3,283 3,284 3,279 (3,263) (3,264) (3,259)	- - - (-)	- - - (-)	
	計	244,938 [56,011] 242,568 [55,814] 229,914 [50,576] (244,718 [55,961]) (242,188 [55,739]) (229,334 [50,476])	2,240 [1,043] 2,251 [1,043] 2,541 [901] (2,240 [1,043]) (2,251 [1,043]) (2,541 [901])	1,594 [1,587] 1,680 [1,670] 206 [198] (1,594 [1,587]) (1,680 [1,670]) (206 [198])	3,283 3,284 3,279 (3,263) (3,264) (3,259)	- - - (-)	- - - (-)	
(6) 図 書 館	面 積	2,977.09 ㎡		閱 覧 座 席 数	410 席	収 納 可 能 冊 数	260,000 冊	大学全体
	面 積	3,576.71 ㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要				
(7) 体 育 館	面 積		野球場 2面		室内野球練習場			
			テニスコート 5面		フットサルコート 2面			
			武道場・剣道場		弓道場			
			アーチェリー場					
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
	教員 1 人 当 り 研 究 費 等	402 千円	402 千円	図書購入費	1,000 千円	800 千円	0 千円	
	共 同 研 究 費 等	5,500 千円	5,500 千円	設備購入費	7,500 千円	5,000 千円	5,000 千円	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次	
	1,550 千円	1,310 千円	1,320 千円	1,330 千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		補助金収入、資金運用収入、手数料収入等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和3年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消のまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	東北工業大学						学生募集停止学科数	2	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
【AC対象学部等】											
工学部										宮城県仙台市太白区	
環境応用化学科	4	65	0	260	学士(工学)	1.02	0.89	令和2	令和2	八木山香澄町35番1号	令和2年度設置届出定員変更(▲15)
工学部										宮城県仙台市太白区	
電気電子工学科	4	120	0	480	学士(工学)	1.13	1.10		昭和39	八木山香澄町35番1号	
情報通信工学科	4	120	0	480	学士(工学)	1.18	1.16		昭和39	同上	
建築学科	4	-	-	-		-	-		昭和41	同上	令和2年度学生募集停止
都市マシ ^ン 設計学科	4	80	0	320	学士(工学)	1.21	0.92		昭和42	同上	
環境工 ^学 設計学科	4	-	-	-		-	-		平成24	同上	令和2年度学生募集停止
建築学部										宮城県仙台市太白区	
建築学科	4	135	0	540	学士(建築学)	1.19	1.20	令和2	令和2	八木山香澄町35番1号	令和2年度設置届出定員変更(15)
ライフデザイン学部										宮城県仙台市太白区	
産業デザイン学科	4	80	0	320	学士(デザイン)	1.15	1.07		平成20	二ツ沢6番	令和2年度名称変更
生活デザイン学科	4	80	0	320	学士(ライフデザイン)	1.21	1.13		平成20	同上	令和2年度名称変更
経営コミュニケーション学科	4	80	0	320	学士(経営コミュニケーション)	1.20	1.23		平成20	同上	
大学全体	-	760	0	3,040	-	-	-	-	-	-	

大学の名称	東北工業大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	1	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍				
工学研究科										宮城県仙台市太白区 八木山香澄町35番1号	
博士(前期)課程											
電子工学専攻	2	5	0	10	修士(工学)	0.60	0.60		平成5	同上	
通信工学専攻	2	5	0	10	修士(工学)	0.90	1.60		平成4	同上	
建築学専攻	2	5	0	10	修士(工学)	2.20	2.60		平成4	同上	
土木工学専攻	2	5	0	10	修士(工学)	0.50	0.60		平成4	同上	
環境情報工学専攻	2	5	0	10	修士(工学)	1.00	1.00		平成15	同上	
博士(後期)課程											
電子工学専攻	3	2	0	6	博士(工学)	0.50	0.00		平成7	同上	
通信工学専攻	3	2	0	6	博士(工学)	0.00	0.00		平成6	同上	
建築学専攻	3	2	0	6	博士(工学)	0.00	0.00		平成6	同上	
土木工学専攻	3	2	0	6	博士(工学)	0.00	0.00		平成7	同上	
環境情報工学専攻	3	2	0	6	博士(工学)	0.33	0.50		平成15	同上	
ライフデザイン学研究科										宮城県仙台市太白区 二ツ沢6番	
博士(前期)課程											
デザイン工学専攻	2	5	0	10	修士(デザイン工学)	0.70	0.80		平成24	同上	
博士(後期)課程											
デザイン工学専攻	3	2	0	6	博士(デザイン工学)	0.00	0.00		平成24	同上	
大学院全体	-	42	0	96	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず、履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<工学部 環境応用化学学科>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	丸尾 容子 (57) <令和2年4月> 博士(工学)
		環境応用化学セミナー 分析化学Ⅱ 表面化学 物理化学実験 計測工学 固体・光化学 機能材料 環境応用化学研修Ⅰ 放射化学 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	教授 (学科長)	山田 一裕 (55) <令和2年4月> 博士(工学)
		循環型社会形成論 環境応用化学セミナー 科学リテラシー 環境マネジメント 大気環境工学 地域環境調査法及び同演習 水環境工学 地域環境調査実習 環境応用化学研修Ⅰ 資源循環とライフサイクルアセスメント 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	教授	穴澤 正宏 (54) <令和2年4月> 博士(理学)
		微分積分学Ⅰ 物理学Ⅰ 環境応用化学セミナー 微分積分学Ⅱ 物理学Ⅱ 線形代数と微分方程式 熱力学 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	教授	佐藤 善之 (53) <令和2年4月> 博士(工学)
		化学工学 環境応用化学セミナー 大気環境工学 有機合成化学 化学数学Ⅰ 応用化学実験 化学数学Ⅱ及び同演習 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	丸尾 容子 (58) <令和2年4月> 博士(工学)
		工業化学概論 環境応用化学セミナー 分析化学Ⅱ 表面化学 物理化学実験 計測工学 固体・光化学 機能材料 環境応用化学研修Ⅰ 放射化学 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	教授 (学科長)	山田 一裕 (56) <令和2年4月> 博士(工学)
		工業化学概論 循環型社会形成論 環境応用化学セミナー 科学リテラシー 環境マネジメント 大気環境工学 地域環境調査法及び同演習 水環境工学 地域環境調査実習 環境応用化学研修Ⅰ 資源循環とライフサイクルアセスメント 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	教授	穴澤 正宏 (55) <令和2年4月> 博士(理学)
		微分積分学Ⅰ 物理学Ⅰ 環境応用化学セミナー 微分積分学Ⅱ 物理学Ⅱ 線形代数と微分方程式 熱力学 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	教授	佐藤 善之 (54) <令和2年4月> 博士(工学)
		工業化学概論 化学工学 環境応用化学セミナー 大気環境工学 有機合成化学 化学数学Ⅰ 応用化学実験 化学数学Ⅱ及び同演習 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	丸尾 容子 (59) <令和2年4月> 博士(工学)
		工業化学概論 環境応用化学セミナー 分析化学Ⅱ 表面化学 物理化学実験 計測工学 固体・光化学 機能材料 環境応用化学研修Ⅰ 放射化学 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	教授 (学科長)	山田 一裕 (57) <令和2年4月> 博士(工学)
		工業化学概論 循環型社会形成論 環境応用化学セミナー 科学リテラシー 環境マネジメント 大気環境工学 地域環境調査法及び同演習 水環境工学 地域環境調査実習 環境応用化学研修Ⅰ 資源循環とライフサイクルアセスメント 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ 環境問題とエコロジー
専	教授	穴澤 正宏 (56) <令和2年4月> 博士(理学)
		微分積分学Ⅰ 物理学Ⅰ 環境応用化学セミナー 微分積分学Ⅱ 物理学Ⅱ 線形代数と微分方程式 熱力学 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	教授	佐藤 善之 (55) <令和2年4月> 博士(工学)
		工業化学概論 化学工学 環境応用化学セミナー 分析化学実験 大気環境工学 有機合成化学 化学数学Ⅰ 応用化学実験 化学数学Ⅱ及び同演習 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	内田 美穂 (52) ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		科学リテラシー 有機化学 分析化学Ⅰ 環境応用化学セミナー 高分子化学 分析化学実験 環境化学 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	准教授	加藤 善大 (47) ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		環境応用化学セミナー 物理化学Ⅰ 無機化学 応用化学実験 電気化学 有機・無機材料 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	准教授	多田 美香 (44) ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		環境応用化学セミナー 分析化学実験 物理化学実験 錯体化学 固体・光化学 触媒化学 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	准教授	佐野 哲也 (41) ＜令和2年4月＞ 博士(環境学)
		生物基礎 環境応用化学セミナー 地球環境科学基礎 地域環境調査法及び同演習 土壌環境工学 地域環境調査実習 緑地環境工学 環境応用化学研修Ⅰ 資源循環とライフサイクルアセスメント 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ 環境問題とエコロジー
専	助教	野澤 壽一 (54) ＜令和2年4月＞ 工学士
		工業化学概論 情報リテラシー 科学リテラシー 地球環境とエネルギー 環境応用化学セミナー CAD技術入門
兼任	教授	葛西 重信 (59) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		物理化学Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	内田 美穂 (53) ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		工業化学概論 科学リテラシー 有機化学 分析化学Ⅰ 環境応用化学セミナー 高分子化学 分析化学実験 環境化学 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	准教授	加藤 善大 (48) ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		工業化学概論 環境応用化学セミナー 物理化学Ⅰ 無機化学 応用化学実験 電気化学 有機・無機材料 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	准教授	多田 美香 (45) ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		工業化学概論 環境応用化学セミナー 分析化学実験 物理化学実験 錯体化学 固体・光化学 触媒化学 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	准教授	佐野 哲也 (42) ＜令和2年4月＞ 博士(環境学)
		工業化学概論 生物基礎 環境応用化学セミナー 地球環境科学基礎 地域環境調査法及び同演習 土壌環境工学 地域環境調査実習 緑地環境工学 環境応用化学研修Ⅰ 資源循環とライフサイクルアセスメント 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ 環境問題とエコロジー
専	助教	野澤 壽一 (55) ＜令和2年4月＞ 工学士
		工業化学概論 情報リテラシー 科学リテラシー 地球環境とエネルギー CAD技術入門
兼任	教授	葛西 重信 (60) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		物理化学Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	内田 美穂 (54) ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		工業化学概論 科学リテラシー 有機化学 分析化学Ⅰ 環境応用化学セミナー 高分子化学 分析化学実験 環境化学 物理化学実験 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	教授	加藤 善大 (49) ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		工業化学概論 環境応用化学セミナー 物理化学Ⅰ 無機化学 応用化学実験 電気化学 有機・無機材料 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	准教授	多田 美香 (46) ＜令和2年4月＞ 博士(工学)
		工業化学概論 環境応用化学セミナー 分析化学実験 物理化学実験 錯体化学 固体・光化学 触媒化学 環境応用化学研修Ⅰ 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ
専	准教授	佐野 哲也 (43) ＜令和2年4月＞ 博士(環境学)
		工業化学概論 生物基礎 環境応用化学セミナー 地球環境科学基礎 地域環境調査法及び同演習 土壌環境工学 地域環境調査実習 緑地環境工学 環境応用化学研修Ⅰ 資源循環とライフサイクルアセスメント 環境応用化学研修Ⅱ 環境応用化学研修Ⅲ 環境問題とエコロジー
専	助教	野澤 壽一 (56) ＜令和2年4月＞ 工学士
		工業化学概論 情報リテラシー 科学リテラシー 地球環境とエネルギー CAD技術入門
兼任	教授	葛西 重信 (61) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		物理化学Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	齋藤 章 (63) ＜令和2年4月＞ 理学士
		数学基礎
兼任	講師	志貴 一元 (63) ＜令和2年4月＞ 理学士、文学修士
		物理基礎
兼任	講師	瀨谷 和夫 (61) ＜令和2年4月＞ 工学修士
		化学基礎
兼任	講師	劉 庭秀 (51) ＜令和2年4月＞ 博士(都市・地域計画)
		循環型社会形成論
兼任	講師	是常 知美 (42) ＜令和2年4月＞ 博士(環境学)
		生物基礎
兼任	講師	藤岡 健司 (45) ＜令和3年4月＞ 修士(農学)
		地域環境調査法及び同演習
兼任	講師	井上 久美 (47) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		生化学
兼任	講師	鈴木 鋭二 (38) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		有機・無機材料

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	齋藤 章 (64) ＜令和2年4月＞ 理学士
		化学基礎
兼任	講師	青山 純 (60) ＜令和2年4月＞ 教育学士
		数学基礎
兼任	講師	竹内 透 (60) ＜令和2年4月＞ 理学士
		数学基礎
兼任	講師	志貴 一元 (64) ＜令和2年4月＞ 理学士、文学修士
		物理基礎
兼任	講師	瀨谷 和夫 (62) ＜令和2年4月＞ 工学修士
		化学基礎 物理基礎
兼任	講師	劉 庭秀 (52) ＜令和2年4月＞ 博士(都市・地域計画)
		循環型社会形成論
兼任	講師	藤岡 健司 (46) ＜令和3年4月＞ 修士(農学)
		地域環境調査法及び同演習
兼任	講師	井上 久美 (48) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		生化学
兼任	講師	鈴木 鋭二 (39) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		有機・無機材料

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	青山 純 (61) ＜令和2年4月＞ 教育学士
		数学基礎
兼任	講師	竹内 透 (61) ＜令和2年4月＞ 理学士
		数学基礎
兼任	講師	志貴 一元 (65) ＜令和2年4月＞ 理学士、文学修士
		物理基礎
兼任	講師	武田 元彦 (60) ＜令和3年4月＞ 教育学士
		物理基礎
兼任	講師	瀨谷 和夫 (63) ＜令和2年4月＞ 工学修士
		化学基礎
兼任	講師	劉 庭秀 (53) ＜令和2年4月＞ 博士(都市・地域計画)
		循環型社会形成論
兼任	講師	藤岡 健司 (47) ＜令和3年4月＞ 修士(農学)
		地域環境調査法及び同演習
兼任	講師	井上 久美 (49) ＜令和4年4月＞ 博士(学術)
		生化学
兼任	講師	鈴木 鋭二 (40) ＜令和4年4月＞ 博士(理学)
		有機・無機材料

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	河内 聡子 (37) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		表象文化論 現代メディア論 東北文化史
兼任	講師	牛渡 亮 (36) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		現代社会論
兼任	准教授	片山 文雄 (46) ＜令和3年4月＞ 博士(法学)
		市民と法 市民と政治 日本国憲法 情報社会とモラル
兼任	教授	小川 和久 (56) ＜令和3年4月＞ 学術修士
		暮らしと心理学 産業社会と心理学 職業指導(工業)
兼任	准教授	中島 夏子 (40) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		職業指導(工業)
兼任	講師	野家 伸也 (66) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		科学思想史 産業社会と倫理 現代の哲学
兼任	講師	舛谷 謙二 (63) ＜令和4年4月＞ 経済学修士
		情報社会の経済
兼任	講師	阿部 登志子 (60) ＜令和3年4月＞ 文学士
		ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	河内 聡子 (38) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		表象文化論 東北文化史
兼任	准教授	大木 葉子 (50) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		現代メディア論
兼任	講師	牛渡 亮 (37) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		現代社会論
兼任	准教授	片山 文雄 (47) ＜令和3年4月＞ 博士(法学)
		市民と法 市民と政治 日本国憲法 情報社会とモラル
兼任	教授	小川 和久 (57) ＜令和3年4月＞ 学術修士
		暮らしと心理学 産業社会と心理学 職業指導(工業)
兼任	准教授	中島 夏子 (41) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		職業指導(工業)
兼任	講師	野家 伸也 (67) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		科学思想史 産業社会と倫理 現代の哲学
兼任	講師	舛谷 謙二 (64) ＜令和4年4月＞ 経済学修士
		情報社会の経済
兼任	講師	阿部 登志子 (61) ＜令和3年4月＞ 文学士
		ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	河内 聡子 (39) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		表象文化論 東北文化史
兼任	准教授	大木 葉子 (51) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		現代メディア論
兼任	講師	牛渡 亮 (38) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		現代社会論
兼任	教授	片山 文雄 (48) ＜令和3年4月＞ 博士(法学)
		市民と法 市民と政治 日本国憲法 情報社会とモラル
兼任	教授	小川 和久 (58) ＜令和3年4月＞ 学術修士
		暮らしと心理学 産業社会と心理学 職業指導(工業)
兼任	准教授	中島 夏子 (42) ＜令和4年4月＞ 修士(教育学)
		職業指導(工業)
兼任	講師	野家 伸也 (68) ＜令和3年4月＞ 博士(文学)
		科学思想史 産業社会と倫理 現代の哲学
兼任	講師	舛谷 謙二 (65) ＜令和4年4月＞ 経済学修士
		情報社会の経済
兼任	講師	阿部 登志子 (60) ＜令和3年4月＞ 文学士
		ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ
兼任	講師	手戸 和喜 (57) ＜令和3年4月＞ 高等学校卒業
		ライフ・キャリアデザイン論Ⅰ ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ
兼任	講師	小寺 良介 (53) ＜令和3年4月＞ 学士
		キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ キャリアデザインⅢ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	高橋 哲徳 (52) ＜令和2年4月＞ 文学修士
		英語ⅠA 英語ⅠB 資格英語A
兼任	准教授	鈴木 淳 (44) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		英語ⅠA 英語ⅠB 資格英語B
兼任	講師	徳永 慎也 (34) ＜令和3年4月＞ 修士(国際文化)
		英語ⅡA 英語ⅡB
兼任	講師	青木 愛美 (28) ＜令和3年4月＞ 修士(英文学)
		英語ⅡA 英語ⅡB
兼任	講師	Craig MacDonald (46) ＜令和2年4月＞ 修士(教育学)
		英会話A
兼任	准教授	Simon Daniel Cooke (47) ＜令和2年4月＞ 修士(応用言語学)
		英会話B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	高橋 哲徳 (53) ＜令和2年4月＞ 文学修士
		英語ⅠA 英語ⅠB 資格英語A
兼任	准教授	鈴木 淳 (45) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		英語ⅠA 英語ⅠB 資格英語B
兼任	講師	徳永 慎也 (35) ＜令和3年4月＞ 修士(国際文化)
		英語ⅡA 英語ⅡB
兼任	講師	青木 愛美 (29) ＜令和3年4月＞ 修士(英文学)
		英語ⅡA 英語ⅡB
兼任	講師	Diego Dardon (32) ＜令和2年4月＞ 修士(国際文化)
		英会話A
兼任	准教授	Simon Daniel Cooke (48) ＜令和2年4月＞ 修士(応用言語学)
		英会話B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	高橋 哲徳 (54) ＜令和2年4月＞ 文学修士
		英語ⅠA 英語ⅠB 資格英語A (資格英語Ⅰ)
兼任	准教授	鈴木 淳 (46) ＜令和2年4月＞ 博士(文学)
		英語ⅠA 英語ⅠB 資格英語B (資格英語Ⅱ) 資格英語Ⅲ
兼任	講師	徳永 慎也 (36) ＜令和3年4月＞ 修士(国際文化)
		英語ⅡA 英語ⅡB
兼任	講師	星 かおり (44) ＜令和3年4月＞ 修士(文学)
		英語ⅡB
兼任	講師	Diego Dardon (33) ＜令和2年4月＞ 修士(国際文化)
		英会話A (英会話Ⅰ)
兼任	准教授	Simon Daniel Cooke (49) ＜令和2年4月＞ 修士(応用言語学)
		英会話B (英会話Ⅱ) 英会話Ⅲ 英会話Ⅳ
兼任	教授	木戸 博 (56) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		人工知能総論
兼任	講師	丸山 次人 (69) ＜令和3年4月＞ 博士(工学)
		人工知能総論 人工知能入門 人工知能応用

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	本田 春彦 (40) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		健康・運動科学実習Ⅰ 健康・運動科学実習Ⅱ スポーツ科学実習
兼任	講師	松原 悟 (61) ＜令和2年4月＞ 体育学士
		健康・運動科学実習Ⅰ 健康・運動科学実習Ⅱ
兼任	講師	河西 敏幸 (51) ＜令和3年4月＞ 博士(障害科学)
		スポーツ科学実習
兼任	講師	池田 晃一 (57) ＜令和2年4月＞ 体育学修士
		健康・運動科学実習Ⅰ 健康・運動科学実習Ⅱ スポーツ科学実習
兼任	講師	伊藤 常久 (47) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		健康・運動科学実習Ⅰ
兼任	講師	犬塚 剛 (51) ＜令和2年4月＞ 修士(スポーツ科学)
		スポーツ科学実習
兼任	講師	門間 陽樹 (35) ＜令和2年4月＞ 博士(障害科学)
		スポーツ科学実習
兼任	講師	森田(太田) 清美 (47) ＜令和3年4月＞ 修士(体育学)
		スポーツ科学実習
兼任	講師	黒澤 尚 (41) ＜令和2年4月＞ 修士(スポーツ科学)
		スポーツ科学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	本田 春彦 (41) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		健康・運動科学実習Ⅰ 健康・運動科学実習Ⅱ スポーツ科学実習
兼任	講師	松原 悟 (62) ＜令和2年4月＞ 体育学士
		健康・運動科学実習Ⅰ 健康・運動科学実習Ⅱ
兼任	講師	河西 敏幸 (52) ＜令和3年4月＞ 博士(障害科学)
		スポーツ科学実習
兼任	講師	池田 晃一 (58) ＜令和2年4月＞ 体育学修士
		健康・運動科学実習Ⅰ 健康・運動科学実習Ⅱ スポーツ科学実習
兼任	講師	伊藤 常久 (48) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		健康・運動科学実習Ⅰ
兼任	講師	犬塚 剛 (52) ＜令和3年4月＞ 修士(スポーツ科学)
		スポーツ科学実習
兼任	講師	門間 陽樹 (36) ＜令和3年4月＞ 博士(障害科学)
		スポーツ科学実習
兼任	講師	森田(太田) 清美 (48) ＜令和3年4月＞ 修士(体育学)
		スポーツ科学実習
兼任	講師	黒澤 尚 (42) ＜令和3年4月＞ 修士(スポーツ科学)
		スポーツ科学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	中山 英久 (45) ＜令和3年4月＞ 博士(情報科学)
		人工知能入門 人工知能基礎
兼任	准教授	本田 春彦 (42) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		健康・運動科学実習Ⅰ 健康・運動科学実習Ⅱ スポーツ科学実習
兼任	講師	松原 悟 (63) ＜令和2年4月＞ 体育学士
		健康・運動科学実習Ⅱ
兼任	講師	池田 晃一 (59) ＜令和2年4月＞ 体育学修士
		健康・運動科学実習Ⅰ 健康・運動科学実習Ⅱ
兼任	講師	森田(太田) 清美 (49) ＜令和3年4月＞ 修士(体育学)
		スポーツ科学実習

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高野 淳司 (46) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		健康・運動科学実習Ⅰ 健康・運動科学実習Ⅱ スポーツ科学実習
兼任	講師	伊勢 只義 (33) ＜令和2年4月＞ 博士(教育情報学)
		健康・運動科学実習Ⅱ
兼任	講師	草野 修治 (49) ＜令和2年4月＞ 学士(体育学)
		スポーツ科学実習
兼任	講師	金野 麻衣 (41) ＜令和2年4月＞ 修士(スポーツ科学)
		健康・運動科学実習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	高野 淳司 (47) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		健康・運動科学実習Ⅰ 健康・運動科学実習Ⅱ スポーツ科学実習
兼任	講師	土井 豊 (64) ＜令和2年4月＞ 体育学修士
		健康・運動科学実習Ⅱ
兼任	講師	草野 修治 (50) ＜令和3年4月＞ 学士(体育学)
		スポーツ科学実習
兼任	講師	金野 麻衣 (42) ＜令和2年4月＞ 修士(スポーツ科学)
		健康・運動科学実習Ⅰ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) ＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	高野 淳司 (48) ＜令和2年4月＞ 博士(医学)
		健康・運動科学実習Ⅰ 健康・運動科学実習Ⅱ スポーツ科学実習
兼任	講師	土井 豊 (65) ＜令和2年4月＞ 体育学修士
		スポーツ科学実習
兼任	講師	金野 麻衣 (43) ＜令和2年4月＞ 修士(スポーツ科学)
		健康・運動科学実習Ⅰ

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和2年度】

- ・よりきめ細やかな指導を行うため、また教育課程編成上の都合により、『数学基礎』の担当教員を齋藤章兼任講師1名から青山純兼任講師と竹内透兼任講師の2名に変更。
- ・よりきめ細やかな指導を行うため、『物理基礎』の担当教員に瀨谷和夫兼任講師を追加。
- ・よりきめ細やかな指導を行うため、『化学基礎』の担当教員に齋藤章兼任講師を追加。
- ・是常知美兼任講師の就任辞退に伴い、『生物基礎』の担当教員から削除。『生物基礎』は佐野哲也専任准教授が単独で行うこととした。
- ・『工業化学概論』の授業形態を単独からオムニバス方式に変更したため、丸尾容子教授、山田一裕教授、佐藤善之教授、内田美穂教授、加藤善大准教授、多田美香准教授、佐野哲也准教授の担当科目に追加。
- ・『環境応用化学セミナー』の担当教員を一部変更したため、野澤壽一助教の担当科目から削除。
- ・『表象文化論』および『東北文化史』の担当教員である河内聡子兼任講師を専任教員（総合教員センター講師）として採用したため、兼任講師に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、『現代メディア論』の担当教員を、河内聡子兼任講師から大木葉子兼任准教授に変更。
- ・嶋崎順子兼任講師の就任辞退に伴い、『ドイツの文化と言葉』の担当教員を松崎裕人兼任講師に変更。
- ・徐麗兼任講師の就任辞退に伴い、『中国の文化と言葉』の担当教員を佐藤祐李兼任講師に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、『英会話A』の担当教員をCraig MacDonald 兼任講師からDiego Dardon 兼任講師に変更。
- ・伊勢只義兼任講師の就任辞退に伴い、『健康・運動科学実習Ⅱ』の担当教員を土井豊兼任講師に変更。
- ・『健康・運動科学実習Ⅰ』『健康・運動科学実習Ⅱ』および『スポーツ科学実習』の担当教員である高野淳司兼任講師を専任教員（総合教育センター教授）として採用したため、兼任教授に変更。
- ・犬塚剛兼任講師の就任時期の記載に誤りがあったため、令和3年4月に修正。
- ・門間陽樹兼任講師の就任時期の記載に誤りがあったため、令和3年4月に修正。
- ・黒澤尚兼任講師の就任時期の記載に誤りがあったため、令和3年4月に修正。
- ・草野修治兼任講師の就任時期の記載に誤りがあったため、令和3年4月に修正。

【令和3年度】

- ・授業運営の変更等の都合により、『環境問題とエコロジー』の担当教員に山田一裕教授を追加。
- ・授業運営の変更等の都合により、『分析化学実験』の担当教員に佐藤善之教授を追加。
- ・授業運営の変更等の都合により、『物理化学実験』の担当教員に内田美穂教授を追加。
- ・専任教員の昇任に伴い、加藤善大准教授の職位を教授に変更。
- ・教育課程編成上の都合により、『物理基礎』の担当教員の一部を、瀨谷和夫兼任講師から、武田元彦兼任講師に変更。
- ・兼任教員の昇任に伴い、片山文雄兼任准教授の職位を兼任教授に変更。
- ・阿部登志子兼任講師の辞任に伴い、『ライフ・キャリアデザイン論Ⅱ』の担当教員を手戸和喜兼任講師に変更。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『キャリアデザインⅠ』『キャリアデザインⅡ』『キャリアデザインⅢ』を新設することとし、その担当教員として小寺良介兼任講師を採用。
- ・教育課程編成上の都合により、『英語ⅡA』の担当教員を徳永慎也兼任講師、青木愛美兼任講師の2名から、徳永慎也兼任講師1名に変更。（徳永慎也兼任講師は2クラス担当。）
- ・教育課程編成上の都合により、『英語ⅡB』の担当教員を徳永慎也兼任講師、青木愛美兼任講師の2名から、徳永慎也兼任講師、星かおり兼任講師の2名に変更。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『英会話A』『英会話B』に代わり、『英会話Ⅰ』『英会話Ⅱ』『英会話Ⅲ』『英会話Ⅳ』を新設することとし、その担当教員として、Diego Dardon兼任講師、Simon Daniel Cooke兼任准教授を充てる。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『資格英語A』『資格英語B』に代わり、『資格英語Ⅰ』『資格英語Ⅱ』『資格英語Ⅲ』を新設することとし、その担当教員として、高橋哲徳兼任教授、鈴木淳兼任准教授を充てる。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『人工知能総論』を新設することとし、その担当教員として木戸博兼任教授、丸山次人兼任講師を充てる。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『人工知能入門』を新設することとし、その担当教員として中山英久兼任准教授、丸山次人兼任講師を充てる。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『人工知能基礎』を新設することとし、その担当教員として中山英久兼任准教授を充てる。
- ・教養教育科目のカリキュラム改定により、『人工知能応用』を新設することとし、その担当教員として丸山次人兼任講師を充てる。
- ・授業運営の変更等の都合により、『健康・運動科学実習Ⅰ』の担当教員から松原悟兼任講師、伊藤常久兼任講師を削除。
- ・授業運営の変更等の都合により、『健康・運動科学実習Ⅱ』の担当教員から土井豊兼任講師を削除。
- ・授業運営の変更等の都合により、『スポーツ科学実習』の担当教員から河西敏幸兼任講師、池田晃一兼任講師、犬塚剛兼任講師、門間陽樹兼任講師、黒澤尚兼任講師、草野修治兼任講師を削除。

- (注) ・ 変更内容を簡潔書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（A C教員審査）を受けてください。**A C教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（A C）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二条別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
5	3	0	1	9	0	6	2	0	1	9	0
(5)	(3)	(0)	(1)	(9)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
6	2	0	1	9	0	6	2	0	1	9	0
[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[1]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	0 名	0 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{9}{9} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{9} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況（該当なし）

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
合計 (D)				後任補充状況の集計 (E)						
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）」の理由に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況（該当なし）

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計 (F)				後任補充状況の集計 (G)						
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」 |
|---|

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)						
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{0}{9} = 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況（該当なし）

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由	
合計			後任補充状況の集計				
辞任した教員数			担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」（該当なし）

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
届 出 時 (令和元年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年)	・東北工業大学の既設 学科等（工学部都市マ ネジメント学科）の入 学定員超過の改善に努 めること。	指摘事項 (改善) ・令和3年度入試にあたって は、これまでの入試結果等 を踏まえ、入学定員並びに 収容定員の適正な確保を一 層徹底することを目指して 行った。その結果、工学部 都市マネジメント学科の令 和3年度の入学定員超過率は 0.92倍、平均入学定員超過 率は1.21倍となり、指摘の 状態は改善した。	履行中 ・引き続き定員管理の厳格 化に努めることとする。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<工学部 環境応用化学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>【卒業要件単位数】</p> <p>教養教育科目必修6単位を含む24単位以上、 専門教育科目必修51単位を含む100単位以上、 合計124単位以上修得のこと</p> <p>(ただし、※1の科目の中から合計12単位以上を 必ず修得すること)</p> <p>※1の科目については2. 授業科目の概要を参照</p>	<p>教養教育科目のカリキュラム改定により、令和3年度 入学生より、下記のとおり卒業要件単位を改定した。</p> <p>【卒業要件単位数】</p> <p>教養教育科目必修8単位を含む24単位以上、 専門教育科目必修51単位を含む100単位以上、 合計124単位以上修得のこと</p> <p>(ただし、※1の科目の中から合計12単位以上を 必ず修得すること)</p> <p>※1の科目については2. 授業科目の概要を参照</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>a 委員会の設置状況</p> <p>全学的な組織として、「東北工業大学FD委員会」を設置している。</p> <p>また、FD委員会の中に「FD企画部会」を設置し、委員会での審議に付す原案作成等の議論を行っている。</p> <p>さらに必要に応じて特定課題についてのワーキンググループを設置するなど、集中的な議論も行っている。</p> <p>(「東北工業大学FD委員会規程」および「FD企画部会規程」は別添のとおり。)</p> <p>b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)</p> <p>令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、FD企画部会を1回開催したのみとなった。</p> <p>一方、遠隔授業の実施に係る研修をはじめ、FD(FSD)研修会は計8回開催しており、開催にあたっては、全て事前にFD企画部会の承認(メール審議)を得た上で実施している。なお、FD企画部会での審議内容についても、持ち廻りによるFD委員会に諮り、承認を得ている。</p> <p>FD企画部会のメンバーは、副学長1名、教務委員会副委員長1名、情報サービスセンター副センター長、教職員2名、大学事務局次長、長町校舎事務長、その他委員長が必要と認める者、から構成されており、令和2年度においては、全ての委員が委員会に参加している。</p> <p>c 委員会の審議事項等</p> <p>FDの企画、立案に関すること、FDに関する提言及び指導・助言を行うこと、FDに関する調査、資料収集及び分析を行うこと、FDに関する講演会、研修会等を企画し、実施すること、等</p> <p>② 実施状況</p> <p>a 実施内容</p> <p>令和2年度は、下記のとおり計8回のFD(FSD)研修会を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新任教員研修会(講師:学長 他) 2) 遠隔授業の実施方法について(講師:情報サービスセンター担当者) 3) 「明るい職場応援団」パワーハラスメント講座(講師:(株)クオレ・シー・キューブ担当者) 4) 「PROGテスト2020」分析結果解説会(講師:(株)リアセック担当者) 5) 情報システム(MATLAB)研修会(講師:MathWorks担当者) 6) 教員業績の可視化と点検評価について(講師:渡邊副学長(教員業績評価検討WG主査)) 7) 大学ブランド・イメージ調査結果解説説明会(講師:(株)日経BPコンサルティング担当者) 8) 会津大学におけるAI教育の実践事例紹介(講師:会津大学副学長) <p>また、これらの研修会の他に、例年実施している授業評価アンケートの実施や教員表彰等も行った。</p>

b 実施方法

上記 a に示したFD(FSD)研修会については、それぞれ議題に即して講師による説明（プレゼンテーション）を行った後、会場からの質疑応答の時間を設ける形で行った。中にはフリーディスカッションに近い形で活発な意見交換が行われた研修会もあり、全て今後の教育効果向上に資する内容とすることでできた。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- 1) 新任教員説明会（講師：学長 他）
 - ・日時等：令和2年4月1日（水）14：00～@八木山キャンパス1号館4階第1会議室
 - ・教員の参加状況：対象者（新規採用者）10名全員参加
- 2) 遠隔授業の実施方法について（講師：情報サービスセンター）
 - ・日時等：令和2年4月10日（金）14：00～@八木山キャンパス1号館3階131教室&オンライン配信
 - ・教員の参加状況：後日録画配信も行ったため、ほぼ全ての教員が受講した。
- 3) 「明るい職場応援団」パワーハラスメント講座（講師：（株）クオレ・シー・キューブ）
 - ・日時等：令和2年8月5日（水）～9月10日（木）@オンライン配信
 - ・教員の参加状況：ハラスメント防止研修も兼ねており、全教職員の受講を義務付けた。
- 4) 「PROGテスト2020」分析結果解説会（講師：（株）リアセック）
 - ・日時等：令和2年9月11日（金）14：00～@八木山キャンパス1号館3階131教室&オンライン配信
 - ・教員の参加状況：後日録画配信も行ったため、ほぼ全ての教職員が受講した。
- 5) 情報システム（MATLAB）研修会（講師：MathWorks）
 - ・日時等：令和2年10月21日（水）16：40～@オンライン配信
 - ・教員の参加状況：教職員・学生併せて88名参加した。
- 6) 教員業績の可視化と点検評価について（講師：渡邊副学長（教員業績評価検討WG主査））
 - ・日時等：令和2年11月20日（金）16：50～@八木山キャンパス1号館3階131教室&オンライン配信
 - ・教員の参加状況：後日録画配信も行ったため、ほぼ全ての教員が受講した。
- 7) 大学ブランド・イメージ調査結果解説説明会（講師：（株）日経B Pコンサルティング）
 - ・日時等：令和3年1月22日（金）15：00～@オンライン配信
 - ・教員の参加状況：後日録画配信も行ったため、ほぼ全ての教職員が受講した。
- 8) 会津大学におけるA I教育の実践事例紹介（講師：会津大学副学長）
 - ・日時等：令和3年3月25日（木）15：00～@オンライン配信
 - ・教員の参加状況：後日録画配信も行ったため、ほぼ全ての教職員が受講した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

令和2年度の授業運営にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、遠隔授業の導入が余儀なくされたが、FDの一環で遠隔授業の実施方法の説明会を実施する他、学部会議等でグッドプラクティスを共有し、実施方法の意見交換を行うなど、授業の質保証・向上のため、各教員が適宜改善を図りながら学修効果の高い授業を目指して取り組んできた。その結果、学生へのアンケートの結果では、遠隔授業に対する一定の評価を得ることが出来た一方、遠隔授業に対応しきれていない学生も一定数いることが判明したことから、令和2年度後期からは、対面授業と遠隔授業を組み合わせたハイブリッドな授業運営を行い、科目の特性に合わせて遠隔授業と対面授業を使い分けることで、学修効果の一層の向上に努めてきた。

また、PROGテストの導入やアセスメントポリシーの策定など、学修成果の可視化に向けた取り組みも加速させているところであり、これらの研修会を通じて各教員の一層の理解を促し、本学における教育の質保証の取り組みに着手しているところである。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

- ・実施の有無 : 有
- ・実施の時期 : 前期・後期の各期間中（年2回）

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの結果については、自由記述欄に対する教員からのコメントも含めて、ポータルサイトを通じて学生・教職員に公開している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項【該当なし】

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況（回数や開催日など）

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
東北工業大学工学部環境応用化学科は、「化学を基盤分野としながらも、化学反応プロセスや装置設計に関する工学の基礎、さらにその応用として環境・エネルギー問題の評価や解決のための技術を体系的に教育する」ことを目的に、前身の工学部環境エネルギー学科を改組する形で設置された。
令和3年度入試では、志願者323名を集めたものの、結果として入学者は58名（入学定員充足率89%）と、定員を満たすことが出来なかった。これは、歩留り率が工学部の他学科と比して低かったことが影響したと見ており、今後は競合他大学の中で、本学科を選んでもらえるような魅力発信により一層努めていく必要がある。
一方、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によって遠隔授業への導入が余儀なくされたが、教育の質の維持・向上のため、各教員が工夫を凝らした授業運営を行ってきた。今後も設置の趣旨・目的の達成および設置計画の確実な履行のため、教職員一丸となって教育・研究水準の維持・向上に努めていくこととする。

② 自己点検・評価報告書
本学の自己点検・評価は、「東北工業大学の大学評価に関する規程」に基づき、これまでは3年周期で自己点検・評価を行ってきたが、加速する環境の変化に対応するため、また大学運営改善の迅速化を図るため、令和元年度より、毎年実施することとしている。令和3年度における自己点検・評価（令和2年度分）は、下記の予定で行う予定である。なお、工学部環境応用化学科は令和2年4月に開設されたばかりであり、現在のところ当該組織個別の自己点検・評価を行う予定はないが、大学全体の点検・評価の中でその内容を盛り込むこととする。

a 公表（予定）時期
・令和3年11月1日 公表予定

b 公表方法
・大学ホームページ上に公開予定（令和3年11月頃を予定）

③ 認証評価を受ける計画
・令和2年度に評価機関（（公財）日本高等教育評価機構）の認証評価を受審し、令和3年3月、同機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 [()]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

東北工業大学FD委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東北工業大学FD委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営等について定めるものとする。

(目的)

第2条 委員会は、東北工業大学（以下「本学」という。）におけるFD活動を組織的に行い、もって本学の諸活動を向上させることを目的とする。

(定義)

第3条 この規程における「FD」とは、本学に所属する個々の教員が本学における種々の義務（教育・研究・学内活動・社会貢献等）を達成するために必要な専門的能力を維持し、改善するためのあらゆる方策や活動をいう。

(任務)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を任務とする。

- (1) FDの企画、立案に関すること
- (2) FDに関する提言及び指導・助言を行うこと
- (3) FDに関する調査、資料収集及び分析を行うこと
- (4) FDに関する講演会、研修会等を企画し、実施すること
- (5) その他FDに関すること

(組織)

第5条 委員会は、学長の指名する次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 副学長
- (2) 学部長
- (3) 総合教育センター長
- (4) 教務委員長
- (5) 情報サービスセンター長
- (6) 大学事務局長
- (7) その他必要と認める者

2 委員会は、必要に応じて、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

3 委員会は、FDに関する専門的事項を調査・検討するため、FD企画部会を置くことができる。FD企画部会に関する事項は、別に定める。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、2年とし、重任を妨げない。

2 委員に欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第7条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は教育研究担当の副学長を、副委員長は将来構想・広報担当の副学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。委員長に事故あるときは、副委員長がこれに当たる。

(会議)

第8条 委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ会議を開くことはできない

(事務局)

第9条 委員会に関する事務は、教務学生課が行う。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年10月1日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から改正施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。

F D企画部会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、東北工業大学FD委員会規程第5条第3項に基づき、FD企画部会（以下「企画部会」という。）の組織及び運営について定めるものとする。

(目的)

第2条 企画部会は、FDに関する基本方針と実施計画を策定し、FD委員会に提案する。

(構成)

第3条 企画部会は、FD委員長の指名する次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 副学長 1名
- (2) 教務委員会副委員長 1名
- (3) 情報サービスセンター副センター長
- (4) 教職員 2名
- (5) 大学事務局次長
- (6) 長町校舎事務長
- (7) その他委員長が必要と認める者

2 企画部会は必要に応じて企画部会委員以外の出席を求め、意見を聞くことができる。

(協議事項)

第4条 企画部会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 教育・研究に関するFD関連事項
- (2) 学内活動に関するFD関連事項
- (3) 社会貢献に関するFD関連事項
- (4) 学長からの要望事項及びその他FDに関して重要と認められる事項

(委員の任期)

第5条 企画部会委員（以下「委員」という。）の任期は、2年とする。ただし、重任を妨げない。

2 委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(運営)

第6条 企画部会に企画部会委員長（以下「委員長」という。）を置き、副学長をもって充てる。

2 委員長は、企画部会を招集し、その議長となる。委員長に事故あるときはあらかじめ委員長の指名する委員が代理する。

(推進部会)

第7条 企画部会の方針に従って具体的な施策を実行するため推進部会を置くことができる。

2 推進部会に関する事項は、別に定める。

(事務局)

第8条 企画部会に関する事務は、教務学生課が行う。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から改正施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から改正施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から改正施行する。